

ミラノ日本人カトリック教会

Milano Cappellania Cattolica Giapponese (Luciano Mazzocchi 神父)

2011年—8月15日被昇天の祝日

福音ルカ1・39-55

マリア、エリサベトを訪ねる そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。」

マリアの賛歌 そこで、マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人でもわたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

福音を顧みて

聖母の被昇天祭

イタリアルネッサンスの画家 Correggio (コッレージョ) は、パルマ市のカテドラルのドームに聖母マリアの被昇天画を描きました。一面が明かりの渦をなして、その渦の中に巻き込まれた夥しい男女が天に引き上げられる情景の絵です。聖母の姿をいくら探しても、直ぐには見当たらず、目立つのは夥しい男女の薄い色の顔の群れだけです。聖母の姿はどこかと伺い続けると、やっと気付くのは、天に上げられるその明かりの渦こそが、聖母の両腕の抱擁である事です。ドームの頂点はただ金一色で、言うまでもなく、全人類を連れて来る聖母を待ち構えられる主の座です。

聖母に捧げられる祈りの中に、「ご胎内の御子イエスも祝福されています」とあります。聖母のご胎内に宿ったその御体は、私達の救いを願って十字架の上に捧げられた尊い御方です。聖母のご胎内に出来たあの尊い御体は、私達と一体化する運命を担っています。言わば、聖母のご胎内に形作られたその尊い御体に深い関連を持っている私達は、聖母を信仰上の母として仰ぐのは当然です。

聖母の姿には、この世で子供に生命を伝える全ての母親の姿を仰ぎ見る事が出来ます。母性がある、生命があり、生命があって信仰と希望と愛の道があります。子供を生む女性がいなければ、天を賑わす神の国の民もあり得ません。聖母の被昇天祭は、すべての母親に対する感謝の日として祝いましょう。

「わたしたち罪びとのために、今も、死を向かえる時も、お祈りください。」

人生の旅の途中で人間が心を汚し、他人に苦しみをもたらす事もあります。その場合、この自分が、人にも、また自分自身にも、嫌になります。皆に嫌われる様になっても、この自分の事を心に留め、しかも可愛いと思いつけて下さる一人の方が居ます。それは母です。天に昇天された聖母は、全ての母親と一緒に、罪深い人類の事を我が子として心に留め、その救いを祈り続けて下さいます。耐えないその祈りの力は、世の中を天に昇る明かりの渦に巻き込めて下さいます。

アブエ・マリア



分かち合い



2010年12月8日にアヴェ・マリアの試用版が出されました。そして、2011年6月14日に新しい「アヴェ・マリアの祈り」が決まりました。各教会で検討し、集約した決定版です。後半が少し改正されました。ご参照下さい。

アヴェ・マリアの祈り

アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。
あなたは女のうちに祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。
神の母聖マリア、
わたしたち罪びとのために、
今も、死を迎える時も、お祈りください。
アーメン。

(2011年6月14日 定例司教総会にて承認)